



息栖神社



交通機関御案内

- 東京方面より 東京八重洲南口より高速バス「鹿島神宮駅」行で約1時間40分、セントラルホテル下車、タクシー5分（徒歩可）
- 千葉方面より 総武線（成田廻り）小見川駅下車、タクシー10分
- 高速道路 東関東自動車道「佐原・香取インター」より20分
「潮来インター」より15分
- 一般道路 水戸方面より国道51号、約1時間30分
銚子より国道124号、約35分
- 鹿島・香取神宮へは 約20分



東国三社 息栖神社

〒314-0133 茨城県神栖市息栖2882
TEL. 0299-92-2300
FAX. 0299-92-2300

年間主要な祭典と行事

一月一日	午前六時	元旦祭
一月七日	午前十時	白馬祭
二月節分	午後五時	節分祭
三月六日	午前十時	祈年祭
四月十三日	午前十時	例大祭
五月三日	午前十時	境内社祭
六月三十日	午前十時	大祓(みそぎ祭)
八月二十七日	午前十時	風祭
十一月十三日	午前十時	秋祭
十二月三日	午前十時	献穀祭
十二月三十一日	午前十一時	大祓



息栖神社

御祭神

久那斗神(岐神)

相殿 天鳥船神

〃 住吉三神

鎮座地

茨城県神栖市息栖二八八二

御由緒

久那戸大神は古く国史にも見え、鹿島、香取の神々と共に東国三社の一つと称され、上下の信仰の厚い神社であります。

久那斗神「岐神」は、路の神であり除厄招福の神であり、井戸の神でもあります。天鳥船神は交通守護に、住吉三神は海上守護の神として御神徳が顕著で、神前に祈念する者にとその限らない御思頼を垂れさせられ御守護下さるものであります。



創祀沿革

息栖神社の創祀は応神天皇の御代と伝えられるものの祭神の御神格からして神代時代に鹿島・香取、両神社の御祭神に從つて東国に至り、鹿島・香取の両神宮は其々台地に御鎮座するものの久那斗及び天鳥船神は海辺の港（日川）に姿を留めてやがて応神朝に神社として祀られたと思われます。日川に御鎮座當時の御社名に付いては記録がありません。【出雲の大神様より鹿島香取の大神様の道案内を命ぜられた久那斗神は現在出雲大社の近くに出雲大社の摂社・出雲井神社（路神社）として祀られております】

国史（三代実録）に書かれてある「於岐都説神社」が現在の息栖神社です。常陸風土記によれば香島神郡が出来たのは大化五年（今からおおよそ約千三百年前）であり、和尙年間の鹿島地方は鹿島丘陵の南は今の鹿嶋市国末で終わり、その後沖洲であつたものがようやく陸続きとなり幾つかの集落が出来て一段と低く南へ延びて居たことが分かる。息栖神社はこのような沖洲に鎮祭され大同二年四月十三日（八〇七年）平城天皇の勅命を受けた藤原内麻呂によつて現在地に遷されたといえられてゐる。

三代実録にも、光孝天皇の御代（仁和元年・一一二〇年）の紀に『正六位於岐都説神從五位下を授く』とあり、於岐都説は於岐都洲であり沖洲であり、息栖になつたものであります（別説あり）。上下の崇敬厚く、弘安の元寇には勅使を奉じて国家安泰を祈願し、明治元年には勅使として、（神祇判官事正四位右近衛少将源朝臣植松雅言）が参向奉幣され、大正三年日独の国交断絶の際にも宣戦報告の供進使が参向される等、又、下三宮詣で（三社詣り）水郷の景を賞しながら青葦・真菰の茂る息栖の河岸より一の鳥居をくぐつて社前に額ずき、大神の御思頼をいただき、さらに香取・鹿島へ詣でる人達、今は車での三社詣での人達が絶えません。

〔建物・境内〕

本殿・幣殿・拝殿

鉄筋・銅板葺、建築面積 八十六平方メートル

（昭和三十八年五月一日建て替え）

〔神門〕

弘化四年建て替え

〔境内総面積〕

三万八千方メートル

〔末社〕

高房神社・伊那那岐神社・鹿島神社・香取神社・奥宮江神社
手子后神社・八竜神社・稲荷神社・若宮

〔忍潮井〕 オシオイ

社前の一の鳥居の両側に二つの鳥居があります。此の中から清水が湧いており、伊勢の明星井・伏見の直井と併せて、日本三所の霊水と言われて、社前の川一帯が海であった頃から清水が湧き出て居て、潮の中にあつて真水が出るので、忍潮井（おしおい）の名が付けられた。（昭和四十八年五月、河川改修の為現在地に移された）

心ある人に見せばや常陸なる

息栖の浜のお潮井の水

潮満ちてみるめすくなくなりにけり

息栖の筒井、浪にしづみて

○文苑

此の里は気吹戸主の風さむし

青葦や船よりをがむ息栖宮

鹿島瀉おきすの森の不如帰

船をとめてそ初音聞きつる

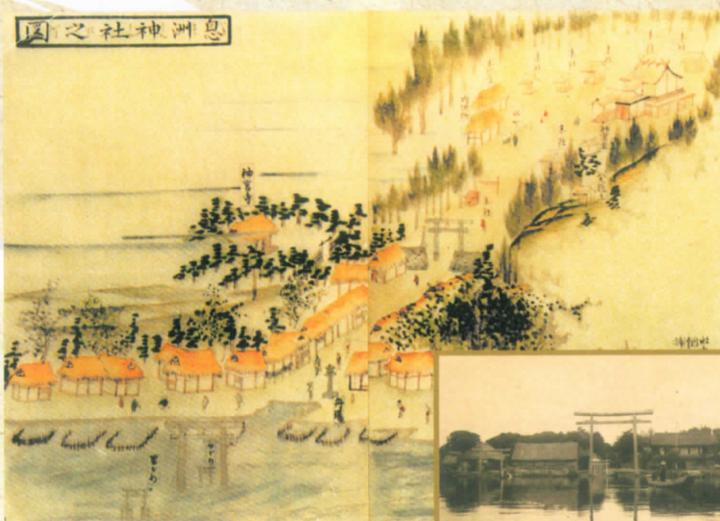
ここがその息栖の森のほととぎす

芭蕉

九江

藤原時朝

湖心



▲例大祭



▲御遷座1200年記念碑



ここにある人に
みせばや常陸なる
息栖の浜の
忍潮井の水



此の里は
息吹戸主の
風寒し
松尾芭蕉句碑